

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本におけるニート問題の深刻さ
Author(s)	チェン ジャホイ,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 24・25期 : 16 - 30
Issue Date	2010-12-24
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038804
Right	
Relation	



日本におけるニート問題の深刻さ

チェン・ジャホイ

1. はじめに

日本人には従来、会社のために身を尽くし、一生懸命働くイメージがある。仕事に没頭し過ぎ、死に至るまで、いわゆる過労死を引き起こすまでにバカのように仕事をするイメージがあるのだ。日本人の頑張り屋のイメージはあまりにも強く、英語で「過労死」を表す時、「Karoushi」とローマ字にし、それが世界中で使われている。

しかし、近年、そういうイメージは段々崩壊しつつある。フリーターやニートの増加につれ、昔とは逆に、やる気のない国というイメージが形成されている。2002年の内閣府の統計によると、ニートの人数は84.7万人もおり、日本の15歳～34歳の人口の2.49%を占めている¹。2.49%という数字は一見少なく見えるけれども、1992年から2002年の間、ニートの人数が約18万人も増え、その増加の速さを無視するわけにはいかない。それに、ニートの増加につれ、いろいろな社会問題が引き起こされる可能性もあるので、ニートの問題を軽く見てはいけないと思われる。

本研究では、日本におけるニートの問題の深刻さを調べたいと思う。ニートが日本の社会にどういった問題や影響を与えているかを調べ、日本のニートの問題は果たしてどれだけ深刻であるかを知りたい。ニートの人数は毎年増えていることは確かだが、その増加の幅は研究者により違ってくるので、研究の最初にその研究者たちの計算方法を詳しく述べ、ニートを定義しようと思う。続いて、ニートが増えている原因を挙げ、次に、ニートの増加による問題を説明したいと思う。いくつかの文献に基づいて問題点を紹介し、筆者もこれから起こりうる問題点を推測したい。その後、日本人が持っているニートのイメージやニートが持っている自分自身のイメージを紹介する。終わりに、ニートの問題の解決方法を探したいと思う。

2. 研究者によるニート人口の相違

2.1. 「ニート」とは

「Not in Education, Employment or Training」の頭文字を合わせるとNEETになる。ニートとは、勉学も仕事もしておらず、仕事につくための専門的な訓練も受けていない人々、とされる²。この言葉は元々イギリス人により作られたが、日本でもよく耳にする。

¹ ニートひきこもり Journal (2006), 『中年ニートの数、ニート率は?』

2010年8月20日5:00閲覧 <<http://nhjournal.blog37.fc2.com/blog-entry-114.html>>

² 玄田有史, 曲沼美恵 (2006), “ニートフリーターでもなく失業者でもなく”, 幻冬舎

イギリスでは16～18歳までの若者しかニートとして認められていない³。しかし、日本の場合は15～34歳未満の未婚で無業者であれば（フリーターを除き）ニートと認定されるので、年齢の幅がイギリスより広い。だから、イギリスではニートというのは青少年の問題であるが、日本では必ずしもそうではない。

「無業者」は細かく3つのカテゴリーに分けることができる⁴。まずは「求職型」である。名前通りに、「求職型」に当てはまる人々は仕事をする意思があり、職探しをしているが、職場の状況などの原因により仕事を見つけることができない。次は「非求職型」である。このカテゴリーの人々は前者と同じく、仕事をしたいという意欲はあるが、前者よりは強くなく、職探しに踏み出せていない。最後に、「非希望型」というカテゴリーがある。このカテゴリーに所属している人々はおそらく職探しをしたことがあるかもしれないが、仕事が見つからず、段々落ち込み、希望を無くしてしまい、仕事を探すのを諦めている。

2.2. ニートと「フリーター」と「ひきこもり」の違い

ニートという言葉はよく「フリーター」や「ひきこもり」と混同される。しかし、三者には微かな違いがある。フリーターはニートと違い、正社員ではなくても仕事は一応しており、時給で働く労働者のことである。ニートのように仕事もせずに、職業訓練もしていないわけではない。

一方、ひきこもりとニートの違いは対人関係の有無だけである。ニートは身内以外の第三者とコミュニケーションを取っているが、ひきこもりは身内以外の人とコミュニケーションを殆ど取っていない。身内と喋らない場合もある。しかし、両者の違いはひじょうにあいまいで、わかりにくい。特に統計を取るときに、誤ってニートをひきこもりと計算する場合もあれば、ひきこもりをニートと計算する場合もある。本研究では、心的（ひきこもり）や病的な障害で学校や仕事に通わない人々をニートとは認めない。非求職型と非希望型の人々しかニートとして扱わない。

2.3. 研究者によるニート増加幅の違い

前に述べたように、2002年の統計によると、日本には84.7万人のニートが暮らしている。そのうち42.6万人は非求職型の人であり、42.1万人は非希望型の人である。玄田有史はその数字や計算法に基づき、ニートは毎年増える傾向があり、しかも驚くほど増えていると主張している。玄田はそういう計算法を使い、ニートの人数が1992年から2002

³ ウィキペディア（2006）『ニート率は』

2010年3月20日23:00閲覧<<http://ja.wikipedia.org/wiki/ニート>>

⁴ 玄田有史，曲沼美恵（2006），“ニートフリーターでもなく失業者でもなく”，*幻冬舎*

年、この10年の間に、約18万人も増えたと言った。（表1を参照）玄田によると、ニートという人たちは「働かないのではない、働けない」のである⁵。

年	非求職型	非希望型	合計（ニート）
1992年	25.7万人	41.2万人	66.9万人
1997年	29.1万人	42.5万人	71.6万人
2002年	42.6万人	42.1万人	84.7万人

表1 ニートの人数（玄田他2006より）⁶

しかし、一方で、本田由紀は玄田の計算法を認めていない。玄田の計算法を批判し、ニートの人数は玄田の言うほどには増えていないと反論した。ニートという人々は元々「働く意欲がない者だ」という見方が支配的だと本田は述べた。しかし、非求職型の人々は「働きたいけれどとりあえず働いてない人」なので、働く意欲はあるのだから、ニートと呼んでいいのかと本田は主張した。非求職型と非希望型を両方ニートとして扱えば、ニートの実像の半分しか捉えないことになるかと本田は言う⁷。

本田の言うようにニートの人数を計算すれば、すなわち非求職型にあたる人々を完全に除き、非希望型の人数しか見なければ、ニートの人数は以下のようになる。

年	非希望型	ニートの人数
1992年	41.2万人	41.2万人
1997年	42.5万人	42.5万人
2002年	42.1万人	42.1万人

表2 ニートの人数（本田他2006より）⁸

表2を見ると、ニートの総数は玄田の言う総数の半分になり、玄田の18万人より遥かに少なくなる。また、1992年から2002年にかけてニートの人数は0.9万人しか増えていないことになる。この10年間の間に、実際に増えているのは非求職型の人々だけで、非希望型の人々はそんなに増えていないというのが本田の見解である。本田のニートの定義に基づくと（ニート＝非希望型だけ）、ニートの人数は少ししか増えていないことになっ

⁵ 本田由紀, 内藤朝雄, 後藤和智 (2006), “「ニート」っていうな!”, 光文社

⁶ 玄田有史, 曲沼美恵 (2006), “ニートフリーターでもなく失業者でもなく”, 幻冬舎 より作成した表

⁷ 本田由紀, 内藤朝雄, 後藤和智 (2006), “「ニート」っていうな!”, 光文社

⁸ 本田由紀, 内藤朝雄, 後藤和智 (2006), “「ニート」っていうな!”, 光文社 より作成した表

てしまう⁹。

両研究者の計算法はともかく、ニートの人数は確かに増える傾向がある。その増加を阻む、あるいは緩和する必要があると筆者は思う。

3. ニートが増加する原因

ひとりの人がニートという道を選び、歩んで行くには様々な理由がある。ここでは、その理由をいくつかを紹介したいと思う。

3.1. 職場説

3.1.1. 不景気

バブル全盛の間、日本の景気は良く、仕事がない人は少なかった。しかし、バブルが崩壊してから、日本は長期間、景気低迷状態にあった。いろいろな会社が赤字になり、倒産してしまっただけでなく、倒産しない会社も生き残るために節約をせざるを得なかった。殆どの会社の経費削減の第一歩は社員をリストラすることであった。

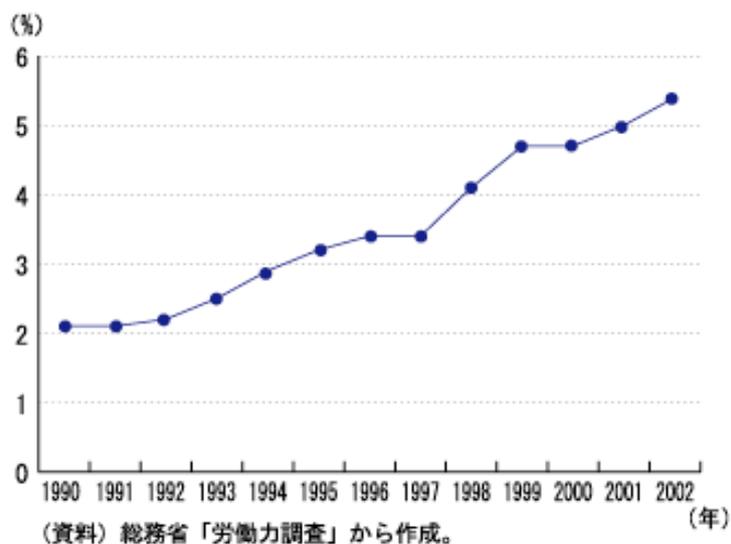


図 1 日本の完全失業率の推移¹⁰

図 1 は経済産業省が作った通商白書 (2003 年版) から取った図で、日本の完全失業率を表している。図 1 を見ると、日本の失業率は 1990 年 (バブル崩壊後) からずっと増加傾向にあることがわかる。失業率が下がらないということは、仕事の数より求職者の方が多

⁹ 本田由紀, 内藤朝雄, 後藤和智 (2006), “「ニート」っていうな!”, 光文社

¹⁰ 経済産業省 (2003), 『通商白書 2003』, 2010 年 8 月 5 日 00 : 00 閲覧

<<http://www.meti.go.jp/report/tsuhaku2003/15tsuushohHP/html/15113600.html>>

いことを意味する。

いきなり仕事を失ってしまい、次の仕事を探してみたが、不景気の中での職探しは簡単ではなかった。また、学校を卒業し、社会に出たばかりの人々も景気が悪かったため、仕事を見つけることが難しかった。毎回毎回会社に断られ、段々希望を無くし、職探しを諦めてしまったのである。

昔の会社は新入社員に十分な職業訓練を施していたが、近年、経費が足りないため、そういう訓練はできなくなってきた。新入社員は仕事をするのに必要なスキルを身に付けな
いまま仕事をし始めるため、仕事の中に問題が生じても対応ができない。挫折し続け、自分に自信を無くし仕事をやめてしまう場合もある。

3. 1. 2. 新卒採用へのこだわり

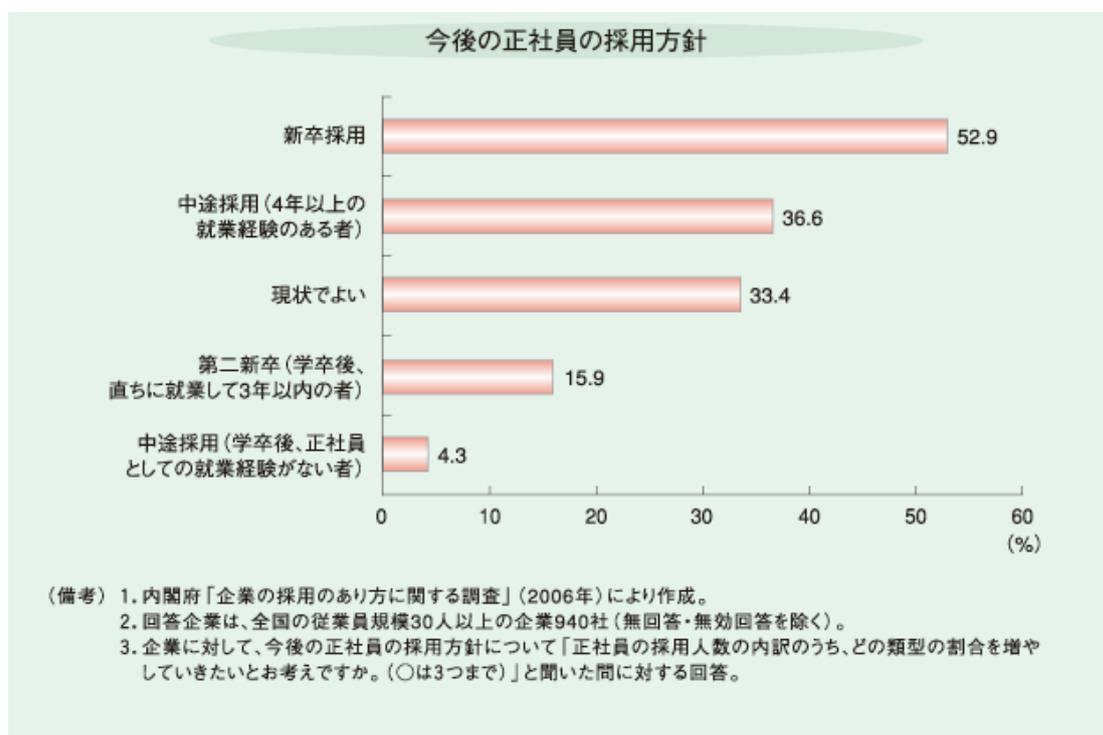


図 2 正社員の採用方針¹¹

図 2 は平成 18 年版の国民生活白書から取った図である。新卒採用率が一番高く、52.9%もある。この数字から日本の会社は新卒の採用にこだわっていることがわかる。新卒とは、学生の中に、就職活動をし、内定をもらい、卒業したらすぐ仕事に就く人々を指す言葉である。しかし、もし学生の中に内定をもらえずに卒業すれば、新卒として扱われなくなり、

¹¹ 内閣府 (2007) , 『平成 18 年版国民生活白書』 , 2010 年 8 月 15 日 23 : 00 閲覧

<http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h18/01_honpen/html/06sh010201a.html>

中途採用の枠になってしまう。中途採用（学卒後、正社員としての就業経験がない者）の採用率は僅か4.3%しかない。同じ学歴で同じ年齢なら、卒業する前に内定をもらった方が有利なのだ。

学生時代に就職活動をして内定をもらえない学生はいる。その中で「新卒」の枠に残りたい人はわざと留年し、次の年にまた就職活動に挑戦する。しかし、留年するにはお金がかかるので、皆が留年することはできない。仕事なしで卒業し、「新卒」という名を失えば、就職することが難しくなってしまう。仕事を見つけられずにニートになってしまう可能性はないとはいえない。日本の会社は新卒にこだわっているため、ニートはニート生活から脱出したいと思っても難しい。

3. 1. 3. 会社環境の不完全さ

玄田によると、病気という理由でニートになった人々の半分は仕事をした経験があった¹²。しかし、彼らは仕事に何等かの原因で病気になり、働けなくなってしまった。彼らがどんな病気にかかってしまったかを調べるのは非常に難しいので、ここでは推測するしかない。日本の会社では競争がすごく激しく、ストレスが溜まりやすい。ストレスが溜まりすぎると、うつ病などの病気にかかりやすくなる。職場での精神的なケアが完全であれば、彼らはそういう病気にならなかつたろうと玄田は指摘する¹³。

3. 2. 家族説

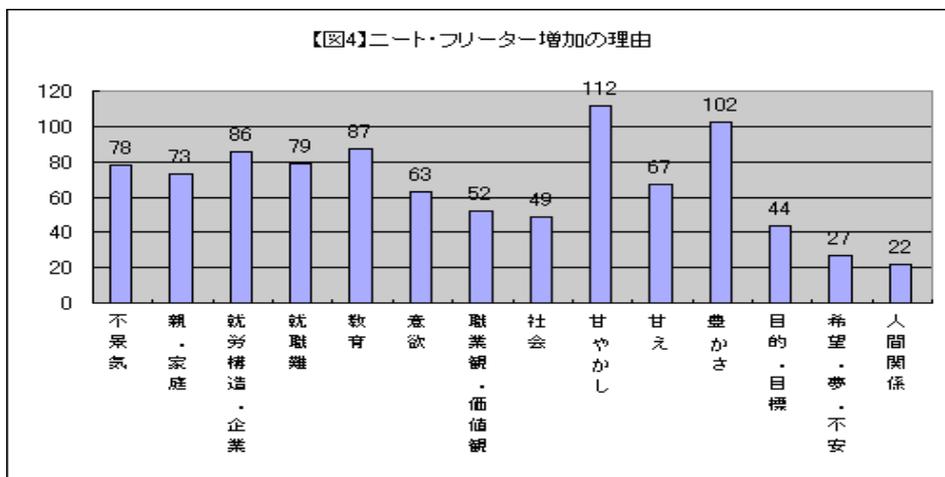


図 3 ニート・フリーター増加の理由¹⁴

¹² Genda Yuji (2005), “The “NEET” Problem in Japan” *Social Science Japan*, no. 32

¹³ Genda Yuji (2005), “The “NEET” Problem in Japan” *Social Science Japan*, no. 32

¹⁴ g o oリサーチ (2006), 『ニート・フリーターに関するアンケート』, 2010年8月22日4:00閲覧

<<http://research.goo.ne.jp/database/data/000233/>>

図3によると、日本人は甘やかし（112人）と豊かさ（102人）の二つが、ニートが増える要因の中で、もっとも大きいと言える。確かに、仕事をせずに暮らしていくにはお金がかかる。だから、裕福な家庭はニートを生み出しやすいと世間は思っている。しかし、玄田の調査によると、非求職型の人々はかなり裕福であるが、非希望型の人々はごく普通の、あるいは貧しい家庭の子供である¹⁵。では、裕福な家庭の子でないニートたちはお金をどこから手に入れて生活をしているのであろうか。

昔の人は子供を何人も生み、全ての子供に物を与える余裕はなかった。従って、子供は、欲しい物があっても、自ら働かなければそれを買うことができない。それに、生活するのにお金がいるため、夢を追うことなどできなかつた。こういった貧しく、夢を追えない状況で育った子供たちは大人になり、自分に子供ができたとき、子供に自分のような貧しい経験をさせたくないため、つい子供を甘やかしてしまう。裕福ではなくても、子供を自由にさせる余裕ぐらいはある。だから、親は、自分の子供がしたいことを見つけるまで、ニート生活を送ることを認めているのかもしれない。一方、ニート側は自分のしたいことが見つかるまで、親からお小遣いをもらい、親の脛を齧り続ける。

3.3. 個人説

ニートの数を増加させたもう一つの原因は、やはりニート自身にある。自分自身にニートになりたくないという気持ちがあり、諦めずに前向きになれば、彼等はニートにならなかつたであろう。もちろん会社や家族にも責任はあるかもしれないが、ニート自身も責任を負わざるを得ないと思う。

フジテレビの「とくダネ！」という番組で取材されていたニートたちは「働いたら負け」、「（サラリーマンは）すごい大変そうでかわいそうに思います。」などと言っていた¹⁶。そういう発言から見ると、ニートは自分の選んだ道にすごく誇りを持ち、仕事をしている人々をバカにしていることが分かる。

さらに、日本テレビの「報道特捜プロジェクト」では鈴木さんという現役ニートを取材した¹⁷。この鈴木さんという男性は学校を卒業してから就職もせずに、毎日自分の好きなことしかしていない。お腹が空いたら母親を呼び、ご飯を要求するが、食卓で一緒に食事はしない。親に迷惑をかけることについてどう思うと聞かれたら、鈴木さんは「迷惑をかけてもいいと思う」と答えた。それに加え、鈴木さんは「働きたくないのではなく、働く

¹⁵ Genda Yuji (2005), "The "NEET" Problem in Japan", *Social Science Japan*, no. 32

¹⁶ Youtube (2007), 『働いたら負け ニート ニコニコ動画 2ちゃんねる ニート君「今の自分は勝つてると思います。」』, 2010年9月3日 23:24 閲覧

<<http://www.youtube.com/watch?v=iRZfRDABf9E&p=16B0C209D7D2C59E&playnext=1&index=2>>

¹⁷ Youtube (2006) 『suzuki neet 3of3』 2010年9月3日 23:55 閲覧

<<http://www.youtube.com/watch?v=4i5cGEEY510&feature=related>>

必要がないのだ」と述べていた。自分で自分を養う力はあるが、親にまだ頼ることができるから今は仕事をする必要がないと思っているニートは鈴木さんに限らない。ニートたちはこういう考え方をすることで職探しや職業訓練などをしていないのである。彼らは目の前にあることしか見ず、将来のことなど考えたことはない。将来どうなるかはその時が来たらまた悩めばいいと思っている若者は少なくない。

4. ニートの増加につれ、引き起こされる問題

4.1. 日本の経済成長を抑止する

経済を成長させるために、労働力は欠かせない。一人でも多く一生懸命働けば日本の経済成長に貢献できると思う。しかし、ニートという人々が存在しているため、使える労働力が減少し、生産性もそれにつれて低くなってしまう。

それに、働ける年齢なのに何もせずに、毎日自分勝手な生活を送るニートたちがいるため、日本のワークフォースはひじょうに活気のないように見えてしまう。外国人投資家がお金を出す前に、まず確認するのはその国に将来性があるかどうかである。活気があり、将来性のある国にお金を投資すれば、その国の労働者が積極的に働いてくれるので、お金を儲けることができる。しかし、日本がニートなどだらしない人々で溢れていれば、外国人投資家は日本に投資しなくなり、お金を他の国へ持って行ってしまう可能性が高い。もしそういうことが起これば、日本の経済は成長できず、むしろ悪くなるだろう。

4.2. 老人介護の問題

日本には少子高齢化という問題がある。子供が少なくなっている上に、お年寄りの数が増えている。お年寄りの介護にはお金が物凄くかかる。若者は働いて、税金を払う。政府はその税金を使い、老人ホームなどの施設を建てるのだが、少子化が進んでいるため、若者は昔より税金を多く払わなければならない。さもないと、お年寄りの介護に使えるお金が足りなくなる。

しかし、若者層に仕事をしていないニートという人々がいる。ニートは働いてないので、税金ももちろん払うことはできない。ニートには収入がないのだから、政府がニートに「税金を払え」と言っても無駄である。徴収できる税金が少なくなっても、お年寄りの介護で手抜きをするわけにはいかない。その場合、もちろん政府が足りないお金を出さなければならない。しかし、政府のお金には限界がある。多くのお金をお年寄りの介護に使えば、他で使うべきお金を削減しなければならない。もし、ニートという問題がなければ、政府はそのお金を他のもっと有意義（例えば、子供の教育など）なところに使えるだろう。

4.3. 家族の死去

ニートは今こうして親の給料や保険金などに頼り、親の脛を齧りながら生活している。しかし、親はニートより年を取っているのだから、いずれ先に死んでしまうことになる。

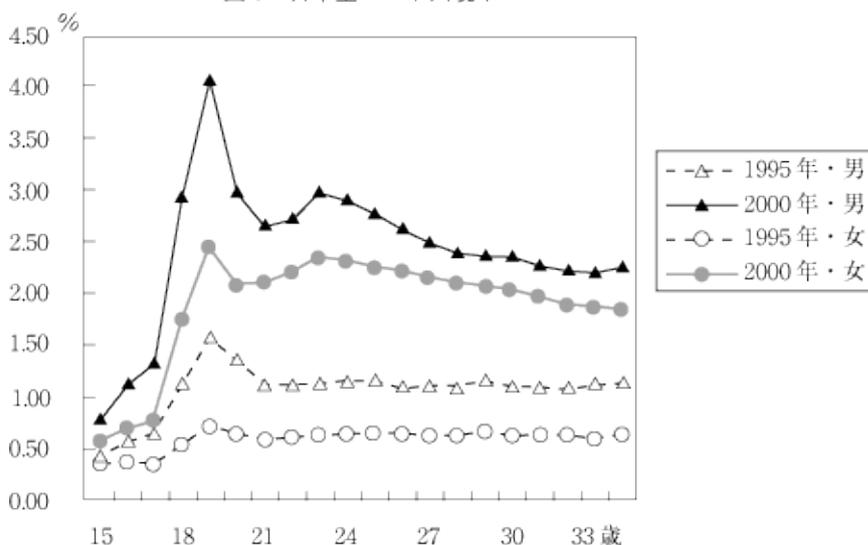
親がお金持ちであれば、大きな財産が残り、そのお金で生活が続けることができるだろうが、先ほど言ったように、非希望型ニートの殆どは決して裕福ではない家庭に育っている。親が亡くなり財産を残しても、ニートが一生働かずに暮らしていけるような莫大な財産はまずない。

そうすると、ニートは就職せざるを得なくなる。一つの仕事をきちんとするにはスキルや知識が必要だが、ニートは、教育も受けておらず、職業訓練も受けたことがなく、仕事をしたことがないので何の経験もない。親の死と共に、どうやって自分を養っていくかという問題が生じる。

ニートが頑張ってニート生活から脱出すればまだ希望があるのだが、もし、ニートのままで、お金を儲けようとしなければ、いずれお金が本当に必要になったときに、罪を犯してしまう可能性がないわけではない。

4.4. 晩婚

図1 日本型ニート出現率



資料出所：総務省「国勢調査」

図4 日本型ニートの出現率¹⁸

図4は1995年と2000年の日本型ニートの出現率を示している。図を見れば分かるように、男性は女性よりニートになりやすい。いずれの年も、またあらゆる年齢層で男性のニート率が女性より高い。これについては、次のように考えることができる。前に述べたように、ニートになる一つの条件は未婚である。日本人にはまだまだ「男は外、女は中」という伝統的な考え方が残っている。男は家の大黒柱でなので、家族を養っていく責任を負っている。一方、女は家事や育児がうまくできれば良い。だから、仕事をしていない女

¹⁸ 小杉礼子(2004)，“特集：若者無業 - NEET”，日本労働研究雑誌

性は男性より結婚しやすく、ずっとニートのままでいても、結婚をすれば、ニートという状況から脱出できる。一方、仕事をしていない男性は安定した収入がないため、お嫁さんをもろうことはなかなかできない。

それに、男性はプライドが女性より高いため、一度失敗すると、立ち直るには女性より時間がかかる。一度ダメージを受け、立ち直れない人々はニートになってしまいやすい。以上の二つの理由で、女性のニート率はつねに男性より低いのである。

先ほど述べたように、仕事のない男性は結婚しにくい。もちろん、ニートは全員結婚できないというわけではない。ただ、ニート、特に男性は、相手を見つけることが難しい。若いうちに仕事をせずに、いい年になってから仕事を見つけやっとな結婚する者が増えるだろう。晩婚は少子化が進む原因の一つである。だから、ニートが増え続ければ、晩婚の人数が増え、少子化がさらに進む可能性がある。

5. 日本人はどういう風にニートを見ているか

ニートと呼ばれる人々は、前に述べたようにいろいろな問題を引き起こす。日本人が持っているニートのイメージは一体どのようなものかをここで見てみたい。

5.1. 「ニート」という呼び名の印象

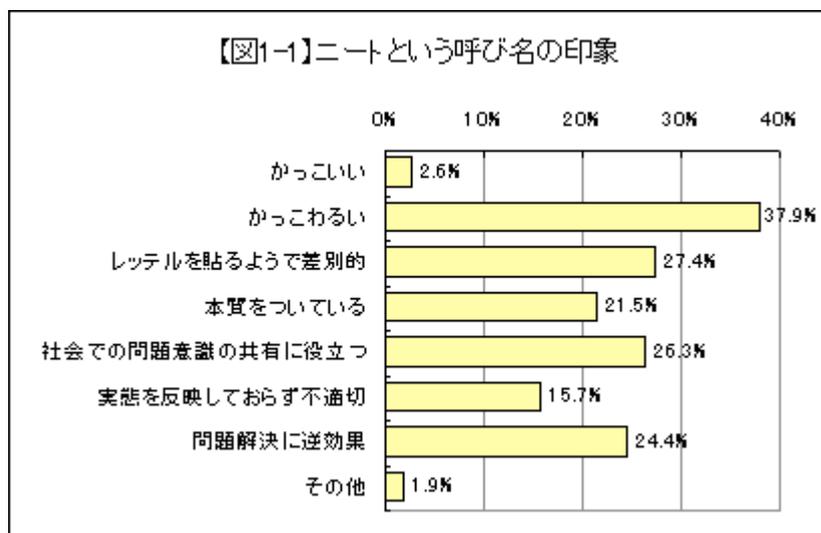


図 5 ニートということばの印象¹⁹

図 5 は 2005 年に実施したインターネットアンケートに基づき作られた図である。回答者は 1076 人である。アンケートを受けた人の 37.9% はニートが「かっこわるい」と返答

¹⁹ gooリサーチ (2006)、『ニート・フリーターに関するアンケート』2010年8月22日4:00閲覧
<<http://research.goo.ne.jp/database/data/000233/>>

した。この数字から見ると、日本人はニートという人々をみっともないと思っていると推測できる。それに、ニートの存在が社会問題になっていると思っている日本人もいる。(アンケートに答えた人の26.3%はニートということばが「社会において問題意識を共有するのに役立つ」と思っている。)

しかし、面白いと思ったのは、一方でニートがかっこいいと思っている人もいることである。「かっこわるい」と答えた人の割合と比べれば物凄く少ないのだが、アンケートを受けた人の中の2.6%が「かっこいい」と答えた。ということは、回答者(自身はニートではない)の中にニートに憧れ、ニートになりたがっている人がいるのかもしれない。前に述べたように、ニートの存在はいろいろな社会問題を引き起こすので、ニートになりたがっている人がいると、ニート問題がより深刻になる可能性がある。そういう考え方をしている人は多分ニートがどういう社会問題を引き起こすか知らずに、ただ毎日のんびりと、仕事もせずに自分の好きなことだけをやっているニート生活を羨ましがっているのだろう。だから、ニートの問題はもっと広く多くの人に知らせなければならないと思う。

5.2. ニートはどのような所で社会問題になっているのか

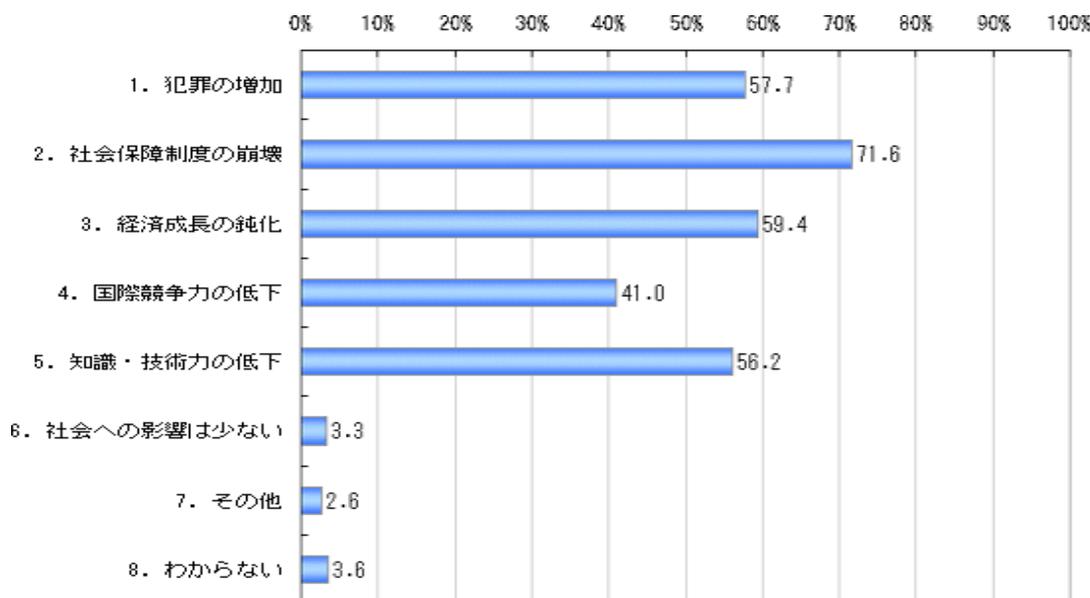


図6 「ニート (NEET)」の増加は社会にどんな影響を及ぼすか²⁰

²⁰株式会社野村総合研究所 (2004), 『「ニート」の増加に対して9割を超える人が危機意識! ~ NRIが行ったアンケート調査では、90%近くの人が、今後、「ニート」は増加すると考え、92%を超える人が「ニート」の増加が社会に大きな影響を及ぼすと回答 ~』

2010年9月1日2:00閲覧 <<http://www.nri.co.jp/news/2004/041101.html>>

2004年にインターネットアンケートという形で1000人を対象に実施したアンケートによると、ニートの増加が社会に及ぼす影響が少ないと思っている人は僅か3.3%しかいなかった。つまり、多くの人はニートの増加は社会にある程度影響を及ぼすと思っているのである。

本稿でも述べたように、ニートが増えると、国際競争力が低下し、経済成長が鈍化してしまうと考える日本人がいる。それに、ニートの増加が犯罪と関係すると考える人は57.7%もいる。ニートはどのような犯罪と関係しそうかについてはアンケートで示されていないのだが、筆者の推測では窃盗などお金に関わる犯罪ではないかと思われる。ニートは収入もなく、親からもらえるお金にも限界があるので、お金が本当に必要になると罪を犯してしまうかもしれない。

6. ニートは自分のことをどう見ているのか

3.3.の個人説の所でテレビ番組で紹介されたニートの例を二つ挙げた。取材された二人はどちらもニートという名や生活に誇りを持ち、満足しているようであった。むしろ、仕事で一生懸命働いているサラリーマンの行動を愚かと思ひ、自分たちのように自由がないと、同情している。ここから得られたニートの自己イメージは、ひじょうに肯定的で、ある意味で生き生きしている。しかし、ソーシャル・ネットワーキングサイト、ミクシーの「むしろニートでいたい」というニートのコミュニティでは全く違う印象を受ける。

コミュニティの掲示板で、「今の気持ち漢字一字で☆」というテーマがある。テーマの名前通りに、コミュニティに参加している人はその日の気持ちを漢字一文字で表している。その掲示板を開いてみると、「疲」、「痛」、「墮」、「闇」、「悩」、「鬱」、「終」、「怒」、「恥」など否定的な漢字がずらりと並んでいる²¹。もちろん、「笑」のような楽観的な文字もあるが、それはひじょうに少ない。能天気に見えるニートも心の底ではすごく暗く、元気がなさそうである。ニートは多分自分の先行きのことが見えず、将来どうすればいいかと悩んでいるように思われる。

今は何となく毎日を過ごしているが、同世代の友達が結婚し、家庭を築くのを見ており、頼っていた親が年を取って亡くなっていくと思うと、自分はこれからどうすれば生活していけるかと悩んでいるのだろう。あるいは、ニートはほぼ毎日遊んでいるので、遊びのタネがなくなり、単に新鮮な感じが無くなったから、困っているのかもしれない。どちらにせよ、ミクシーで見るニートからはテレビのニートと全く違う印象を受ける。

7. ニートの増加を緩和する方法

7.1. 「育て上げ」ネット

²¹ ミクシー (2010), 『むしろニートでいたい!—今日の気持ち漢字一字で☆』, 2010年9月3日3:00閲覧
<http://mixi.jp/view_bbs.pl?page=1&comm_id=1051741&id=53267222>

ニートは確かに増えている。その増加につれ、様々な問題がもうすでに起こっている。あるいは、これから起こるだろう。だから、ニート問題がさらに深刻になる前に、ニートを減らさなければいけない。しかし、ニートを減らすことは、言うのは簡単だが、実現は難しい。だから、今は減らすことより、その増加を緩和しようと考えた方が良いだろう。

現在、ニートを支援している団体がある。その「育て上げ」ネットという団体は、自立が困難な若者を支援するために、2001年に作られた。より大規模に若者の自立支援に取り組もうと、この「育て上げ」ネットは2004年にNPO法人化した。「育て上げ」ネットはまずカウンセリングをしてから、若者に就労基礎訓練プログラムを行う²²。しかし、理事長の工藤啓さんにカウンセリングを受けたいと言う希望者の70%はニートではなく、その母親である。希望者の20%は母親と一緒に来るニート。希望者の10%弱がニート自身である²³。

こういう数字を見れば、ニートはカウンセリングや職業訓練に興味がないと見えるが、実はそうではない。70%の希望者は母親だが、それはニートに頼まれ申し込んでいると工藤さんは言う。「育て上げ」ネットがどういう所かを母親に調べさせるような行動を取るのには、ニートが自ら第一歩を踏み出すのを怖がっているからだろう。誰でも皆、それぞれプライドを持っている。長くニート生活を送り、世間から白い目で見られ、そういう生活から脱出したいのだが、勇気がないのだろう。だから、ニートが自分から助けを求め易い環境を作らなければならない。

7.2. 政府による支援

非求職型のニートは働く意欲はあるが、適切な仕事がない。ならば、国が会社にもっと求人を作れば良いはずだ。もちろん、会社に無理矢理求人をさせるわけではなく、会社にニートを雇う奨励金などを出すのである。しかし、雇われた人がニートであったことを証明すると問題が起こるだろう。まず、会社は奨励金をもらうために、雇った人がニートだとうそをつく可能性がある。それに、過去にニート生活を送ったことを他の人に知られたくない人もいるだろうから、奨励金という解決法は難しいかもしれない。

もう一つ考えられるのは、国による職業訓練の補助金である。この不景気の中で、社員に十分な職業訓練ができる会社は少ないだろう。社員のトレーニングが不十分だと、仕事についていけず、辞めてしまう人もいるに違いない。だから、会社に訓練のための補助金を支出し、社員が訓練を受けられるようにするのだ。そうすれば仕事もちゃんとできるようになるし、仕事を辞めニートになってしまう人の比率も下がる可能性がある。

²² 工藤啓 (2005) , “ニート支援の現場から—NPO「育て上げ」ネット—” , 労働調査

²³ Kudo Kei (2005) “Outreach: Helping “NEET” s Become Active Members of Society” *Social Science Japan*, no. 32

7.3. そのまま放置する方法

筆者にはもう一つ極端な解決法がある。それは何の支援もせずに、ニートをそのまま放置する方法である。ニート自身が助けを求めないのなら、そういう自分を助けようとしないうちに私たちが手を差し伸べる必要はないと思う。切羽詰まったら、ニートが自分から助けを求めてくる日は必ず来るだろう。そうしないと、死んでしまうからである。そんな時が来てから手伝ってあげても遅くないだろう。

8. 限界性

本研究では本やインターネットの資料を調べた。それに加え、筆者も自分の思うところを本稿で述べた。しかし、どの研究にも限界はある。本稿も例外ではない。まず、ニートに関する研究なのに、本物のニートに接することはできなかった。インタビューなどの形でニートの心情をより深く知りたかったのだが、周りにニートの知り合いやニートと繋がりのある人がおらず、直接ニートから話を聞けないため、本やインターネットという二次資料に頼るしかなかった。

二次資料と言っても、ニートに関する資料はフリーターほど多くはないので、読める資料には限りがあった。この研究はもっと広げたかったのだが、資料の量も探す方法も限られており、資料の入手は難しい。

9. おわりに

本稿の狙いはニートの存在が日本の社会でどういう問題となり、影響を与えているかを調べ、日本のニートの問題の深刻さを明らかにすることであった。筆者はまず研究者たちのニートについての考え方を挙げ、ふたりの研究者のニートの計算法の違いを述べた。次に、ニートの増加している原因をいくつかを挙げた。そのあと、資料などを使い、ニートという人々が引き起こしている社会問題を推測してみた。さらに、日本人がどういう風にニートを見ているのかを紹介し、ニートの自己イメージも併せて示した。そして、終わりに、ニートの問題の解決方法も述べた。

ここで述べた原因や問題と提供した資料から見ると、日本におけるニート問題は確かに深刻である。ニートの人数が増えれば増えるほど、いろいろな方面で日本にとって負担になる。それゆえ、ニートの問題を無視、あるいは軽視することなどできない。一刻も早く、ニートの問題の解決に真剣に取り組むべきである。さもないと、問題はどんどん悪化し、取り返しのつかないことになってしまう。

参考文献

玄田有史, 曲沼美恵 (2006), “ニート=フリーターでもなく失業者でもなく”, 幻冬舎
本田由紀, 内藤朝雄, 後藤和智 (2006), “「ニート」っていうな!”, 光文社

小杉礼子 (2004), “特集：若者無業 - N E E T”, 日本労働研究雑誌

工藤啓 (2005), “ニート支援の現場から - NPO「育て上げ」ネットー”, 労働調査

Genda Yuji (2005), “The “NEET” Problem in Japan” *Social Science Japan*, no. 32

Kudo Kei (2005), “Outreach: Helping “NEET”s Become Active Members of Society” *Social Science Japan*, no. 32

内閣府 (2007), 『平成 18 年版国民生活白書』, 2010 年 8 月 15 日 23 : 00 閲覧
<http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h18/01_honpen/html/06sh010201a.html>

経済産業省 (2003), 『通商白書 2003』, 2010 年 8 月 5 日 00 : 00 閲覧
<<http://www.meti.go.jp/report/tshaku2003/15tsuushohHP/html/15113600.html>>

g o o リサーチ (2006) 『ニート・フリーターに関するアンケート』, 2010 年 8 月 22 日 4 : 00 閲覧
<<http://research.goo.ne.jp/database/data/000233/>>

ミクシー (2010), 『むしろニートでいたい！ - 今日の気持ち漢字一字で*』, 2010 年 9 月 3 日 3 : 00 閲覧
<http://mixi.jp/view_bbs.pl?page=1&comm_id=1051741&id=53267222>

株式会社野村総合研究所 (2004), 『「ニート」の増加に対して 9 割を超える人が危機意識！
～ N R I が行ったアンケート調査では、90% 近くの人が、今後、「ニート」は増加すると考え、92%
を超える人が「ニート」の増加が社会に大きな影響を及ぼすと回答 ～』, 2010 年 9 月 1 日 2 : 00
閲覧 <<http://www.nri.co.jp/news/2004/041101.html>>

ニートひきこもり Journal (2006), 『中年ニートの数、ニート率は?』, 2010 年 8 月 20 日 5 : 00
閲覧 <<http://nhjournal.blog37.fc2.com/blog-entry-114.html>>

ウィキペディア (2006), 『ニート率は』, 2010 年 3 月 20 日 23 : 00 閲覧
<<http://ja.wikipedia.org/wiki/ニート>>

Youtube (2007), 『働いたら負け ニート ニコニコ動画 2ちゃんねる ニート君「今の自分は
勝ってると思います。」』, 2010 年 9 月 3 日 23 : 24 閲覧
<<http://www.youtube.com/watch?v=iRZfRDABf9E&p=16B0C209D7D2C59E&playnext=1&index=2>>

Youtube (2006), 『suzuki neet 3of3』, 2010 年 9 月 3 日 23 : 55 閲覧
<<http://www.youtube.com/watch?v=4i5cGEEY510&feature=related>>